

生活科部門

総評

生活科において大切な点は、「自分」と自分のまわりの社会、自然とのかかわりを見つめる「ふりかえり」ができているかどうかです。例年に比べて今年は、根気強く調査、観察、実験をしている作品が多くみられましたが、その中でも、「ふりかえり」がしっかりとできている作品が上位入賞をしています。

ここ数年、生活科部門において少し難しいテーマに取り組む作品が多くなっています。もう一度生活科のテーマである、「くらしの中の自分」をみつめ、「ふりかえり」を大切にしながら、品づくりに取り組んでみてください。

文部科学大臣奨励賞

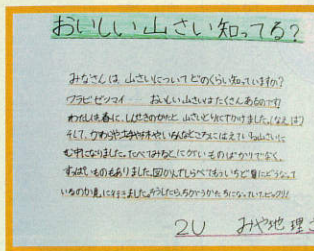
おいしい山さい知ってる？



東京都 白百合学園小学校 2年 宮地 理瑳

春に親戚の人と山菜取りに行った折に食べられる山菜というものがたくさんあることを知り、採って、実際に食べてみたことを報告した作品です。

また、夏にも出かけ、春に採った山菜がきれいな花を咲かせていたり、大きな葉っぱに変身していたりする、その変化を確認しているところも高く評価されました。



山菜に対する興味がわいてくるような作品です

べられるなんてびっくりです。採ったものを押し葉にして残したり、写真をきれいに整理して、とてもわかりやすい



「ゼンマイのもの」がとてもおもしろいですね

夏になるとゼンマイはこんなに大きく姿を変えます



子どもの文化・教育研究所 理事長賞

世界のお米料理

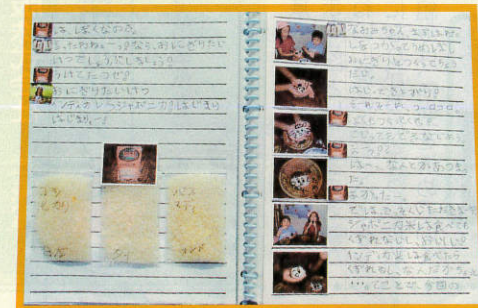
「お米バトルのしようしやはだれだ!?」

千葉県 聖徳大学附属小学校 2年 深山 奈央生

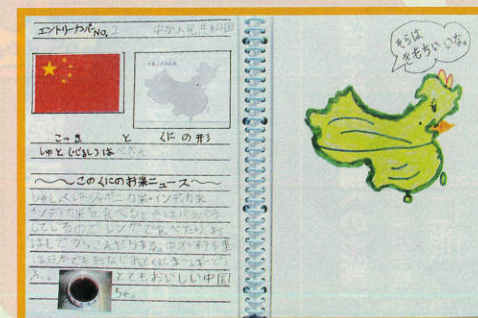


私たちが住んでいるところは日本。毎日のようにお米を食べているけれど、世界にはたくさんの国があって、それぞれ食べ方や味付け、料理の仕方が違うということがよくわかります。

ひとくちにお米といっても、こんなにたくさんの種類の色や形の違うお米があって、かんたんに感じ



いろいろな国のお米でつくった「おにぎりたけつ」!



楽しみながら調べている奈央生さんのようすが、よく伝わってきます

中央出版株式会社 社長賞

天気わかる



東京都 白百合学園小学校 2年 鈴木 満帆吏

晴れの日もあれば、雨がふる日も、雪がふる日もあるけれど、いったい天気って何なのでしょう。そんな天気をテーマに、雲、雨、雪、それぞれの形や種類を調べ、天気予報に使われる専門的なことばにまで挑戦しています。気象予報士という天気を予測することを仕事にしている人と話げたのは、とてもよい経験になったことでした。



雲の写真やグラフを使って、とても詳しくまとめられた力作です

作品作りの中での作業やしかけ作り、天気図の書き込みが楽しかったと、子どもらしい感想を残しながらも、高度な内容で仕上がりが大変きれいです。もう少し生活に根ざした内容を取り入れると、遠くにある雲がもっと近くに感じられるかもしれません。

優秀賞

「くものしずむもの」

千葉県 我孫子市立我孫子小学校 2年 石崎 雄大

「手話を学んで」

東京都 白百合学園小学校 2年 関 菜々美

「かぶとむしは、ほんとうにちからもち」

愛知県 刈谷市立小垣小学校 1年 木許 肇

「おとなのはがはえたよ」

岐阜県 上矢作町立上矢作小学校 1年 石黒 広大

「かぼちゃのけんきゅう」

愛知県 愛知教育大学附属岡崎小学校 2年 中村 さくら

「風車のけんきゅう」

岐阜県 岐阜大学教育学部附属小学校 2年 小野 真穂

海外在住者賞

「やさいのかんざつ」

アメリカ合衆国 ニューヨーク市立学校 2年 早川 知里



自分と似ているのか。顔や体の部分をとって比べてみるという目の付け所が、とてもおもしろいですね。

いつもはメガネをかけている二重まぶたのお父さん。でも、メガネを取って目のあたりだけをよく見てみると、ありやう、「ぼく」は二重まぶたのだけれど、まゆの形や目の下がり具合はお父さんにそっくりだ。身近での意外な発見。耳はどうかな? 手はどうかな? 家族や親戚が楽しく盛り上がりつつある、そんな風景が見えてきそうな作品です。

一部分だけを比べると、似ている相手はいくらいるに分かれるけれど、結局最後の「お父さんと寝相がそっくり!」という決め手は納得です。見た目だけではわからないクセやしぐさは、家族だからこそわかることなのではない。



ご家族の方々の顔の特徴をととても細かく観察しています